

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2026年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		環境園芸学科		
科目名称	専攻演習Ⅱ						授業形態		演習	
科目コード	710094	単位数	2単位	配当学年	4	実務経験教員		○	アクティブ ラーニング	○
担当教員名	関西 剛康								ICT活 用	○
授業概要	専攻演習Ⅱは専攻演習Ⅰを発展させて、造園学における造園計画やフィールドワークの知識と技術の応用を学ぶ。そして、造園計画が必要とされている社会的課題について学び、その解決策について考える（問題解決型学習・PBL）。さらに、造園計画を通じて各自の専門職業人としての専門性を磨いていくために、ワークショップ・グループワーキング・フィールドワークを行う。教員は、技術士（総合技術監理部門、建設部門〔都市及び地方計画〕）や登録ランドスケープアーキテクト（RLA）等の有資格者であり、実務として造園コンサルタントの設計事務所等で20年にわたって国内外の100件を超える都市公園や庭園プロジェクトに参画したキャリアを有する。また、教員は文化庁文化審議会専門委員、宮崎県美しい宮崎づくり推進有識者会議長、宮崎県景観まちづくりアドバイザー、宮崎市花のまちづくりコンクール審査委員長、宮崎グリーンインフラ研究会長などの職務経験も豊富である。授業では、実際に計画設計したランドスケープや先進事例を紹介しながら行う。									
関連する科目	履修前に環境園芸概論、造園学概論、造園植栽論、敷地計画論、都市緑地論、専攻演習Ⅰを、同時に卒業論文を、履修後に専攻演習Ⅲを履修すること。									
授業の進め方 と方法	1. 基本的にアクティブラーニング方式を取り入れて実施する（学術・知識のインプット）。 2. 授業前半は講義を行う（学術・知識のインプット）。 3. 授業後半はグループ学習、ディスカッションや課題発表（問題解決学習、プレゼンテーション）等を行う（学術・知識の醸成とアウトプット）。 4. 授業にはノートパソコンを持参して、ZOOMやSLACK、生成AI（ChatGPT、Gemini等）やDXツールを「デザインの相棒」として活用します。毎時間、インターネット接続が可能なノートパソコンを必ず持参すること。 5. CAD、画像加工アプリ、統計処理ソフトを用いながら、授業を行う。									
授業計画 【第1回】	ガイダンス （専攻演習Ⅱの概要説明と心得について説明）									
授業計画 【第2回】	造園計画の調査研究-1 （調査研究の基礎内容について学ぶ）									
授業計画 【第3回】	造園計画の調査研究-2 （文献調査について学ぶ）									
授業計画 【第4回】	造園計画の調査研究-3 （統計調査等による先見性の把握について学ぶ）									
授業計画 【第5回】	造園計画の調査研究-4 （先進事例の調査研究について学ぶ）									
授業計画 【第6回】	造園計画の調査研究-5 （調査内容の論証手法について学ぶ）									
授業計画 【第7回】	造園計画の知識と技術の応用-1 （研究テーマの設定について学ぶ）									
授業計画 【第8回】	造園計画の知識と技術の応用-2 （研究テーマの精査を行う）									
授業計画 【第9回】	造園計画の知識と技術の応用-3 （研究調査の計画について学ぶ）									
授業計画 【第10回】	造園計画の知識と技術の応用-4 （研究調査の実践方について学ぶ）									

授業計画 【第11回】	造園計画の知識と技術の応用-5 (研究調査の中間まとめを行う)
授業計画 【第12回】	造園計画の知識と技術の応用-6 (研究調査の精査方法について学ぶ)
授業計画 【第13回】	研究論文の発表方法-1 (ディスカッション・プレゼンテーション方法について学ぶ)
授業計画 【第14回】	研究論文の発表手法-2 (研究発表の方法について学ぶ)
授業計画 【第15回】	専攻演習Ⅱのまとめと今後 (ランドスケープ・プランについての全体像を把握する)
授業の到達目標	1. 造園学における造園計画の知識と技術の基礎的内容を修得することを目的とする。 2. 口頭発表を通じてプレゼンテーション能力や、集団討論を通じてディスカッション能力を向上させ、総合的なコミュニケーション能力の向上を目的とする。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(4)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外学習【予習】	1. 授業で配布する学術論文や造園作品資料等を授業前に精読すること。 2. 演習授業であるため、事前に参考となる資料を準備すること。 3. 予習は1時間程度行うこと。
授業時間外学習【復習】	1. 授業後にさらに理解を深めるために学術論文や造園作品資料等を再度精読すること。 2. 復習は1時間程度行うこと。
課題に対する フィードバック	1. レポートは評価後、返却期間をもうけて返却ならびに解説する。
評価方法・基準	1. 研究課題に関するレポート(100点) 2. 授業への取り組みも評価(授業態度によってはマイナス評価も行う)
テキスト	1. テキストは使用しないが、その代わりに適宜プリント資料を配布する。
参考書	1. (公社)日本造園学会：ランドスケープ研究(学会誌) 2. (公社)日本造園学会：ランドスケープ研究作品集(学会誌)
備考	造園計画研究室(関四研)における研究領域の概要は以下の通りである。 1) まずは、SDGs(持続可能な開発目標)を基本に、自然環境が有する多様な機能を活用し、持続可能で魅力ある国土づくりを進める「グリーンインフラ」の視点に立ち、地域活性化や持続可能な都市経営を考えたランドスケープについて研究している。例えば、地域の課題解決型をテーマ(問題解決型学習・PBL)に、実際にフィールドワークによって現状の課題について調査分析を実施し、地域の方

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2026年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		環境園芸学科		
科目名称	専攻演習Ⅱ						授業形態		演習	
科目コード	710094	単位数	2単位	配当学年	4	実務経験教員		○	アクティブ ラーニング	○
担当教員名	平岡 直樹								ICT活 用	○
授業概要	本授業の目的は、都市景観や地域景観についての認識を深めていく上での導入科目として位置づけられ、実務家、研究者として要求される知識・技能・計画性・情報収集能力・計算能力を高めることである。 景観関連の学協会誌・テキストによる演習や事例紹介・現地見学を中心的に行う。認識力や表現力ならびにプレゼンテーション能力を高めることが期待される。									
関連する科目	造園学概論に始まる造園専門科目群、専攻演習Ⅰ、専攻演習Ⅲ、卒業論文が一連の授業体系を構成している。									
授業の進め方 と方法	まず造園の基礎的概念や用語を復習する。続いて研究とはどのようなものでどのように行うのかを実際の研究を参考にしながら学ぶ。 同時に、論文の書き方や注意点などのついても学んでいく。 ほとんどの授業にてテーマに沿ってまとめた課題を報告し、意見交換をするなどアクティブラーニング型の授業を行う。									
授業計画 【第1回】	ガイダンス 演習の進め方、参考文献の紹介、景観分析の全体像の紹介									
授業計画 【第2回】	景観の基礎知識1 視覚の法則を学ぶ									
授業計画 【第3回】	景観の基礎知識2 色彩等を学ぶ									
授業計画 【第4回】	景観の基礎知識2 サウンドスケープ等を学ぶ									
授業計画 【第5回】	景観の基礎知識 景観評価にかかわる見学会									
授業計画 【第6回】	景観の応用知識 景観調査の技術を学ぶ。									
授業計画 【第7回】	景観の応用技術 景観調査技術演習									
授業計画 【第8回】	景観の応用技術 景観実地調査1									
授業計画 【第9回】	景観の応用技術 景観実地調査2									
授業計画 【第10回】	景観の応用技術 データ整理									

授業計画 【第11回】	景観の応用技術 データ分析
授業計画 【第12回】	都市と景観 文献講読
授業計画 【第13回】	都市の景観評価 現況調査
授業計画 【第14回】	都市の景観評価 写真比較
授業計画 【第15回】	都市と景観の今後 まとめ
授業の到達目標	1) 都市景観について体系的に学び、地域とはどんなものか、景観が地域の中でどのような役割を果たしているかを知る。【専門分野のスキル】 2) 都市景観の調査や計画にかかわる専門職業人として必要な基礎的知識や技術を学び、持続可能な循環型社会の実現に向けた課題発見と問題解決をはかる手がかりを身につける。【課題発見・分析・解決力】 3) 演習を通じて、現状の認識力や表現力、グループ作業による協調性ならびにプレゼンテーション能力など、技術者として不可欠な素養を高める。【プレゼンテーション力】【実践力】
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(3)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(4)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外学習【予習】	第1回目の授業で示す参考図書など基礎的な都市論や景観論、造園学に関する資料を授業前に読んでおく。また、自らの都市や景観についての知見を深め、景観の社会的意義を理解するために、身近な都市や自然地に赴き、その成り立ちや社会的位置づけなどについて考察を深めておく。ゼミ報告担当の場合は発表資料等を準備する。(約1.5時間)
授業時間外学習【復習】	第1回目の授業で示す参考図書など基礎的な都市論や景観論、造園学に関する資料について、授業後に理解が曖昧な時は見直しておく。(約0.5時間)
課題に対する フィードバック	各授業時間内に課題や発表に対してお互いに質疑応答を活発に行う。必要に応じてコメントを示す。
評価方法・基準	毎回の演習に対する進捗度、理解度を評価する。
テキスト	授業中において配布する資料及び紹介又は指示する書籍
参考書	第1回目の授業（ガイダンス）において紹介する。主なものの一部を以下に示す。 ①篠原修編・景観デザイン研究会『景観用語事典 増補改訂版』彰国社、2007 ②福井幸夫、空京子『社会基盤整備のための景観設計学 脳から環境の美しさを考える』コロナ社、2006 など ③後藤春彦：景観づくり論、学芸出版社、2007
備考	演習の実施形態についてはガイダンス時に説明する。

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2026年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		環境園芸学科		
科目名称	専攻演習Ⅱ						授業形態		演習	
科目コード	710094	単位数	2単位	配当学年	4	実務経験教員		○	アクティブ ラーニング	○
担当教員名	牧田 直子								ICT活 用	○
授業概要	専攻演習Ⅰで習得した力を基に、卒業論文の準備を行い、自らの卒業論文を作成する力を養う。 また、論文に書かれた内容をまとめて発表する力を高め、プレゼンテーション能力を身につける。 卒論テーマに即した内容の論文を通して研究手法、分析、解析方法などの理解をさらに深める。 調査、分析を行う。									
関連する科目										
授業の進め方 と方法	各自の卒業研究の内容、進捗状況を毎回報告し、その内容や研究方法について議論を行う。 庭園の現地調査やアンケート調査を行い、分析する。 ICT活用（エクセルによる統計分析、Googleフォームなどを活用したアンケート調査、CADを利用した計画設計、パワーポイントを利用 したプレゼンテーション、ワードを利用した文書作成）									
授業計画 【第1回】	1 研究テーマの検討① 過去の研究の対象地を訪問し、研究内容を考察する。									
授業計画 【第2回】	2 研究テーマの検討② 過去の研究の対象地を訪問し、研究内容を考察する。 研究計画書を作成する。									
授業計画 【第3回】	3 研究方法の検討① 研究テーマを考える。 既往論文の講読。 研究計画書を修正する。									
授業計画 【第4回】	4 研究方法の検討② 研究の目的と背景を検討する。 既往研究からの引用や結果を仮定するなどして研究方法を決める。 研究の妥当性を確認し、研究のフローチャートを作成する。 研究計画書を修正する。									
授業計画 【第5回】	5 文献調査 引用文献を抽出する 研究計画書を修正する。									
授業計画 【第6回】	6 分析方法① データの収集方法や分析方法について学ぶ。									
授業計画 【第7回】	7 アンケート対象地の実地調査 アンケート票を作成方法する前に、対象地（対象物、人）を訪問する。 現地調査、ヒアリング調査、エスノグラフィー調査など、その他の調査方法の手順や作成方法などを学ぶ。									
授業計画 【第8回】	8 アンケート調査の手法 アンケート票の作成方法、質問文、依頼文の書き方、個人情報保護法などについて学ぶ。 アンケートの分析方法について学ぶ。単純集計、クロス集計などエクセルを用いて実際に行う。									
授業計画 【第9回】	9 研究指導① 結果の仮説をたて、研究の背景と目的を再度作成する。 研究内容について妥当性を議論する。 研究計画書の見直し。									
授業計画 【第10回】	10 現地調査① 研究対象地で現地調査を行う。									

授業計画 【第11回】	11 現地調査② 研究対象地で行った現地調査の結果をまとめる。
授業計画 【第12回】	12 現地調査③ 研究対象地で現地調査を行う。
授業計画 【第13回】	13 現地調査④ 研究対象地で行った現地調査の結果をまとめる。
授業計画 【第14回】	14 研究指導② 研究計画書の作成
授業計画 【第15回】	15 総括 各自の研究内容の確定 研究計画書の提出
授業の到達目標	自らが取り組む卒論テーマに関連した研究論文を読解し、論理的思考での記述、要点をまとめる力、明確に話す力を養います。プレゼンテーション能力を高める。 【専門分野のスキル】【課題発見・分析・解決力】【プレゼンテーション力】
学位授与の方針 (DP)との関連	1.知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1.知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2.汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／2.汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3.人間力、社会性、国際性の涵養-(1)／3.人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3.人間力、社会性、国際性の涵養-(3)／3.人間力、社会性、国際性の涵養-(4)／3.人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外学習【予習】	卒論テーマに関する資料検索、予備調査などを行う。（週に8時間以上） 研究テーマに沿って各自で文献調査や現地調査を行う場合もある。
授業時間外学習【復習】	卒論テーマに関する資料検索、予備調査などを行う。（週に8時間以上） 研究テーマに沿って各自で文献調査や現地調査を行う場合もある。
課題に対する フィードバック	毎回実施内容について講義中にコメントする。 提出物に評価点、改善内容や指摘内容を記載する。
評価方法・基準	研究計画書の内容100%
テキスト	なし
参考書	ランドスケープ研究（日本造園学会） など
備考	

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2026年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		環境園芸学科		
科目名称	専攻演習Ⅱ						授業形態		演習	
科目コード	710094	単位数	2単位	配当学年	4	実務経験教員			アクティブ ラーニング	○
担当教員名	日高 英二								ICT活 用	○
授業概要	卒業論文に向けて個人またはグループで研究テーマを決め、テーマに合った研究計画を立案する。調査計画に従って必要な調査手法を修得し、調査を進める。調査結果は定期的にデータ整理をして、調査結果をわかりやすい形（図・表）に加工する。調査研究の途中経過とそれまでに得られた結果をまとめる。									
関連する科目										
授業の進め方 と方法	決定した卒業研究のテーマに従って調査研究を行う。要所でデータ分析や中間検討を行い、その結果をもとに調査研究の進め方の修正をする。									
授業計画 【第1回】	研究テーマ検討1：素案提出									
授業計画 【第2回】	論文読解1：緑化関連の研究									
授業計画 【第3回】	論文読解2：植栽環境に関する研究									
授業計画 【第4回】	研究テーマ検討2：テーマ決定									
授業計画 【第5回】	論文読解3：テーマ関連の研究									
授業計画 【第6回】	研究計画検討1：研究スケジュール									
授業計画 【第7回】	研究計画検討2：調査方法の検討									
授業計画 【第8回】	研究計画検討3：調査方法の習得									
授業計画 【第9回】	調査研究1：予備調査									
授業計画 【第10回】	調査研究2：調査対象の現況調査									

授業計画 【第11回】	データ分析1：作図
授業計画 【第12回】	データ分析2：作表
授業計画 【第13回】	中間検討1：結果とデータ分析
授業計画 【第14回】	中間検討2：考察・引用分析
授業計画 【第15回】	結果のまとめ（中間報告）
授業の到達目標	演習を通じて、緻密な研究計画を立てることにより、スムーズな卒業研究への移行を目標とする。
学位授与の方針 （DP）との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-（1）／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-（2）／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-（2）／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-（5）
授業時間外学習【予習】	卒業研究のテーマに関する文献等を収集し、その内容を理解する。（週30分程度）
授業時間外学習【復習】	調査データの速やかな整理、図表作成を行う。（週30分程度）
課題に対する フィードバック	提出課題を評価後、返却し解説を行う。
評価方法・基準	調査研究進捗報告100点
テキスト	資料配布
参考書	研究関連文献
備考	

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2026年度	開講キャンパス	都城キャンパス	開設学科	環境園芸学科				
科目名称	専攻演習Ⅱ					授業形態	演習		
科目コード	710094	単位数	2単位	配当学年	4	実務経験教員		アクティブ ラーニング	○
担当教員名	岡島 直方							ICT活 用	○
授業概要	専攻演習Ⅰで習得した力を基に、卒業論文の準備を行い、自らの卒業論文を作成する力を養う。また、論文に書かれた内容をまとめて発表する力を高め、プレゼンテーション能力を養う。卒論テーマに即した内容の論文を通して研究手法、解析などの理解を深める。								
関連する科目	「造園学概論」に始まる造園専門科目群、「専攻演習Ⅰ」、「専攻演習Ⅱ」、「専攻演習Ⅲ」、「卒業論文」が一連の授業体系を構成している。								
授業の進め方 と方法	教室で座学的に実施する演習、樹林地やフィールドなどで演習や実習。 以下に示す計画は目安であり、年度ごとのメンバーの興味や資質もあるので、下記の内容と同じとは限らない。								
授業計画 【第1回】	研究論文探索 興味のある研究を探す練習を行います。								
授業計画 【第2回】	研究計画検討1： 研究室で取り組む対象地域を決定します。								
授業計画 【第3回】	研究計画検討2： 対象地域の調査を行います。								
授業計画 【第4回】	論文読解1 研究対象地域に関する研究として文献を読みます。								
授業計画 【第5回】	論文読解2： 研究対象地域の自然立地的土地利用に関する研究について文献を学習します。								
授業計画 【第6回】	論文読解3： 造園学原論・造園史に関する研究を行います。								
授業計画 【第7回】	論文読解4： 緑地機能に関する研究を行います。								
授業計画 【第8回】	論文読解5： ランドスケープ・エコロジーに関する研究について学習します。								
授業計画 【第9回】	論文読解6： ランドスケープ解析に関する研究について学習します。								
授業計画 【第10回】	論文読解7： 最新情報への更新を行います。								

授業計画 【第11回】	データ分析 1 : 作図をします。
授業計画 【第12回】	データ分析 2 : 作表をします。
授業計画 【第13回】	第一次中間検討 1 : 結果とデータ分析を行います。
授業計画 【第14回】	第一次中間検討 2 : 考察・引用分析を行います。
授業計画 【第15回】	結果のまとめ 半年間のまとめと最終課題を提出します。
授業の到達目標	1. 自らが取り組む卒論テーマに関連した研究論文を読解し、論文から事実を把握す力、要点をまとめる力を身につける。 【専門分野のスキル】【課題発見・分析・解決力】【実践力】 2. 明確に話す力を養い、プレゼンテーション能力を高める。 【プレゼンテーション力】
学位授与の方針 (DP)との関連	2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(3)
授業時間外学習【予習】	事前に提示するプリントに目を通す。(30分程度)
授業時間外学習【復習】	当日の内容の振り返りをし記録をとる。(30分程度) 課題を行う。
課題に対する フィードバック	討論や打ち合わせの時に、各自の取り組みに対するコメントを行う。
評価方法・基準	レポート(100点)
テキスト	必要な資料は、プリントして提供します。
参考書	購入しなければならないということはありませんが、参考図書を挙げます。 「眼を養い手を練れ」、宮脇塾講師室編著、彰国社、(2003) 「生成AIを活用したレポート・論文の書き方」、伊藤貴之、慶應義塾大学出版会、(2026)
備考	卒業論文、卒業施工・設計の報告書などを書く時に必要となるまとめ方の基礎を取り扱う。

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2026年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		環境園芸学科		
科目名称	専攻演習Ⅱ							授業形態	演習	
科目コード	710094	単位数	2単位	配当学年		実務経験教員			アクティブ ラーニング	○
担当教員名	姜 暎求								ICT活用	○
授業概要	専攻演習Ⅰで得た知識を卒業論文作成に活用できるように、更に深化する。									
関連する科目	履修前：農業経済学Ⅰ、農業経済学Ⅱ、農産物流通原論、農産物流通論、専攻演習Ⅰ 履修と同時：卒業論文 履修後：専攻演習ⅢⅠ									
授業の進め方 と方法	食料・農業に関するテーマをゼミ生が自主的に選び、発表する。また、ゼミのメンバーが議論する。									
授業計画 【第1回】	1。食料に関するテーマ									
授業計画 【第2回】	1。食料に関するテーマー続きー									
授業計画 【第3回】	1。食料に関するテーマー続きー									
授業計画 【第4回】	1。食料に関するテーマー続きー									
授業計画 【第5回】	1。食料に関するテーマー続きー									
授業計画 【第6回】	2。農業に関するテーマ									
授業計画 【第7回】	2。農業に関するテーマー続きー									
授業計画 【第8回】	2。農業に関するテーマー続きー									
授業計画 【第9回】	2。農業に関するテーマー続きー									
授業計画 【第10回】	2。農業に関するテーマー続きー									

授業計画 【第11回】	3。食料農産物貿易に関するテーマ
授業計画 【第12回】	3。食料農産物貿易に関するテーマー続きー
授業計画 【第13回】	3。食料農産物貿易に関するテーマー続きー
授業計画 【第14回】	3。食料農産物貿易に関するテーマー続きー
授業計画 【第15回】	3。食料農産物貿易に関するテーマー続きー
授業の到達目標	食料・農業、食料農産物貿易を理解する。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(1)
授業時間外学習【予習】	農林水産省 http://www.maff.go.jp/index.html 、日本貿易振興機構（ジェトロ） https://www.jetro.go.jp/ 、農畜産業振興機構 https://www.alic.go.jp/ 、FAO（国連食糧農業機構） http://www.fao.org/home/en/ などを検索し、知識化する。
授業時間外学習【復習】	農林水産省 http://www.maff.go.jp/index.html 、日本貿易振興機構（ジェトロ） https://www.jetro.go.jp/ 、農畜産業振興機構 https://www.alic.go.jp/ 、FAO（国連食糧農業機構） http://www.fao.org/home/en/ などを検索し、知識化する。
課題に対する フィードバック	教員も議論に参加する。
評価方法・基準	発表(50%)や討論(50%)で評価する。
テキスト	農業および経済関連政府機関、研究機関のホームページ。WTOおよびFAOのホームページ。
参考書	無い
備考	

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2026年度	開講キャンパス	都城キャンパス	開設学科	環境園芸学科				
科目名称	専攻演習Ⅱ					授業形態	演習		
科目コード	710094	単位数	2単位	配当学年	4	実務経験教員		アクティブ ラーニング	○
担当教員名	廣瀬 大介								ICT活 用
授業概要	本科目では、受講者個々が、卒業論文作成に関係する論文を紹介することによって基本的なプレゼンテーションの方法を学ぶことを目的として行う。								
関連する科目	履修前に特に履修すべき科目はない。履修後は、専攻演習Ⅲを履修すること。								
授業の進め方 と方法	毎回、アクティブラーニング型授業を実施する。毎回の授業は、まず発表担当者が発表を行い、その後、受講者全員からの質問を受け、それに対して発表者が明確、端的に答えていく方法で行う。								
授業計画 【第1回】	教員による見本 プレゼンテーションの方法について教授する。								
授業計画 【第2回】	教員による見本 プレゼンテーションの方法について教授する。								
授業計画 【第3回】	受講者各自による発表 （1回につき2～3名程度が担当する） プレゼンテーションの方法を学ぶ。								
授業計画 【第4回】	受講者各自による発表 （1回につき2～3名程度が担当する） プレゼンテーションの方法を学ぶ。								
授業計画 【第5回】	受講者各自による発表 （1回につき2～3名程度が担当する） プレゼンテーションの方法を学ぶ。								
授業計画 【第6回】	受講者各自による発表 （1回につき2～3名程度が担当する） プレゼンテーションの方法を学ぶ。								
授業計画 【第7回】	受講者各自による発表 （1回につき2～3名程度が担当する） プレゼンテーションの方法を学ぶ。								
授業計画 【第8回】	受講者各自による発表 （1回につき2～3名程度が担当する） プレゼンテーションの方法を学ぶ。								
授業計画 【第9回】	受講者各自による発表 （1回につき2～3名程度が担当する） プレゼンテーションの方法を学ぶ。								
授業計画 【第10回】	受講者各自による発表 （1回につき2～3名程度が担当する） プレゼンテーションの方法を学ぶ。								

授業計画 【第11回】	受講者各自による発表 (1回につき2～3名程度が担当する) プレゼンテーションの方法を学ぶ。
授業計画 【第12回】	受講者各自による発表 (1回につき2～3名程度が担当する) プレゼンテーションの方法を学ぶ。
授業計画 【第13回】	受講者各自による発表 (1回につき2～3名程度が担当する) プレゼンテーションの方法を学ぶ。
授業計画 【第14回】	受講者各自による発表 (1回につき2～3名程度が担当する) プレゼンテーションの方法を学ぶ。
授業計画 【第15回】	受講者各自による発表 (1回につき2～3名程度が担当する) プレゼンテーションの方法を学ぶ。
授業の到達目標	人前でプレゼンテーションを行うにあたっての基本方法を会得する【汎用的能力の育成】【志向性の育成】。
学位授与の方針 (DP)との関連	2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)
授業時間外学習【予習】	人に理解してもらえるプレゼンテーションは何かについて各自で勉強すること(約1時間)。
授業時間外学習【復習】	プレゼンテーション時に指摘された事項について検討し、次回に備えること(約1時間)。
課題に対する フィードバック	各プレゼンに対して講評する。
評価方法・基準	プレゼンテーションの内容(50点)、質疑に対する対応力(50点)
テキスト	毎回、発表者が準備すること。
参考書	論理的にプレゼンする技術、「分かりやすい説明」の技術 最強のプレゼンテーション15のルール
備考	

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2026年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		環境園芸学科		
科目名称	専攻演習Ⅱ						授業形態		演習	
科目コード	710094	単位数	2単位	配当学年	4	実務経験教員			アクティブ ラーニング	○
担当教員名	前田 隆昭								ICT活 用	
授業概要	本演習の目的は、果樹園芸学を対象とした学術論文の輪読を行い、論文の内容を把握できるようになることである【知識・理解の育成】。									
関連する科目	3年次後期の専攻演習Ⅰに引き続いて行う。									
授業の進め方 と方法	毎回、専攻生全員で輪読し、一人一人が論文の内容を発表する【汎用的技能の育成】。その際は、随時、ディスカッション等により学びを深める。本授業は、グループディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションを取り入れたアクティブラーニング形式とする。									
授業計画 【第1回】	第1回 ガイダンス（スケジュール、評価、概要説明） 授業のスケジュールおよび評価方法、概要を説明する。									
授業計画 【第2回】	第2回 論文紹介および発表1 学術論文を紹介するとともに、専攻生が論文の内容を発表する。									
授業計画 【第3回】	第3回 論文紹介および発表2 学術論文を紹介するとともに、専攻生が論文の内容を発表する。									
授業計画 【第4回】	第4回 論文紹介および発表3 学術論文を紹介するとともに、専攻生が論文の内容を発表する。									
授業計画 【第5回】	第5回 論文紹介および発表4 学術論文を紹介するとともに、専攻生が論文の内容を発表する。									
授業計画 【第6回】	第6回 論文紹介および発表5 学術論文を紹介するとともに、専攻生が論文の内容を発表する。									
授業計画 【第7回】	第7回 論文紹介および発表6 学術論文を紹介するとともに、専攻生が論文の内容を発表する。									
授業計画 【第8回】	第8回 論文紹介および発表7 学術論文を紹介するとともに、専攻生が論文の内容を発表する。									
授業計画 【第9回】	第9回 論文紹介および発表8 学術論文を紹介するとともに、専攻生が論文の内容を発表する。									
授業計画 【第10回】	第10回 論文紹介および発表9 学術論文を紹介するとともに、専攻生が論文の内容を発表する。									

授業計画 【第11回】	第11回 論文紹介および発表10 学術論文を紹介するとともに、専攻生が論文の内容を発表する。
授業計画 【第12回】	第12回 論文紹介および発表11 学術論文を紹介するとともに、専攻生が論文の内容を発表する。
授業計画 【第13回】	第13回 論文紹介および発表12 学術論文を紹介するとともに、専攻生が論文の内容を発表する。
授業計画 【第14回】	第14回 論文紹介および発表13 学術論文を紹介するとともに、専攻生が論文の内容を発表する。
授業計画 【第15回】	第15回 論文紹介および発表14 学術論文を紹介するとともに、専攻生が論文の内容を発表する。
授業の到達目標	学術論文を読解し、要点をまとめて発表できるようになることを目標とする。【専門分野のスキルの獲得】【汎用的技能の育成】
学位授与の方針 (DP)との関連	2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)
授業時間外学習【予習】	次回輪読する論文を読み、知識を深めておくこと。(約1時間)。
授業時間外学習【復習】	授業で輪読した論文に関する参考文献を調べ、より理解を深めて下さい。(約1時間)
課題に対する フィードバック	毎回、発表についての指導を行う。
評価方法・基準	以下の項目に基づいて評価する。 1) 受講態度-50点 2) 発表内容-50点
テキスト	特になし(毎回、資料を配布する)
参考書	特になし
備考	

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2026年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		環境園芸学科		
科目名称	専攻演習Ⅱ						授業形態		演習	
科目コード	710094	単位数	2単位	配当学年	4	実務経験教員		○	アクティブ ラーニング	○
担当教員名	菅野 善明								ICT活 用	○
授業概要	植物に発生する主要病害の種類、症状、発生生態および防除法を学ぶ。 植物には多種多様な微生物が感染し病気を引き起こしている。ある一つの植物をテーマとし、発生病害、病気の原因、病原体の種類、植物における症状、病気の発生生態および防除法を広く理解するため、これらを学生が関心のある園芸作物についてまとめ発表する。									
関連する科目	微生物学、植物病理学、植物バイオ・育種演習Ⅰ、植物バイオ・育種演習Ⅱ、総合防除論、専攻演習Ⅰを履修していることが望ましい。									
授業の進め方 と方法	学生が関心のある作物・園芸植物を選び、その植物に発生する病害、病気の原因、病原体の種類、植物における症状、病気の発生生態および防除法をまとめて発表を行う。発表内容について他の学生、指導教員からの質問受け回答するとともに、プレゼンする方法についても良い点、改善すべき点等について意見交換を行う。									
授業計画 【第1回】	1. トマトに発生する病害 トマトに発生する病害について病原体・病徴・発生生態・防除法についてまとめて発表する。									
授業計画 【第2回】	2. ナスに発生する病害 ナスに発生する病害について病原体・病徴・発生生態・防除法についてまとめて発表する。									
授業計画 【第3回】	3. ピーマンに発生する病害 ピーマンに発生する病害について病原体・病徴・発生生態・防除法についてまとめて発表する。									
授業計画 【第4回】	4. キュウリに発生する病害 キュウリに発生する病害について病原体・病徴・発生生態・防除法についてまとめて発表する。									
授業計画 【第5回】	5. キャベツに発生する病害 キャベツに発生する病害について病原体・病徴・発生生態・防除法についてまとめて発表する。									
授業計画 【第6回】	6. サツマイモに発生する病害 サツマイモに発生する病害について病原体・病徴・発生生態・防除法についてまとめて発表する。									
授業計画 【第7回】	7. ジャガイモに発生する病害 ジャガイモに発生する病害について病原体・病徴・発生生態・防除法についてまとめて発表する。									
授業計画 【第8回】	8. イネに発生する病害 イネに発生する病害について病原体・病徴・発生生態・防除法についてまとめて発表する。									
授業計画 【第9回】	9. ダイズに発生する病害 ダイズに発生する病害について病原体・病徴・発生生態・防除法についてまとめて発表する。									
授業計画 【第10回】	10. イチゴに発生する病害 イチゴに発生する病害について病原体・病徴・発生生態・防除法についてまとめて発表する。									

授業計画 【第11回】	11. カンキツに発生する病害 カンキツに発生する病害について病原体・病徴・発生生態・防除法についてまとめて発表する。
授業計画 【第12回】	12. 芝草類に発生する病害 芝草類に発生する病害について病原体・病徴・発生生態・防除法についてまとめて発表する。
授業計画 【第13回】	13. 庭木に発生する病害 庭木に発生する病害について病原体・病徴・発生生態・防除法についてまとめて発表する。
授業計画 【第14回】	14. 樹木に発生する病害 樹木に発生する病害について病原体・病徴・発生生態・防除法についてまとめて発表する。
授業計画 【第15回】	15. まとめ これまでの講義を総括する。
授業の到達目標	・園芸植物に発生する病害、病気の原因、病原体の種類、植物における症状、病気の発生生態および防除法を理解する。 ・わかりやすいプレゼンテーション能力を習得する。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)
授業時間外学習【予習】	発表の配布資料・プレゼン内容を事前に教員と共に図表の説明、まとめ方、理解できない点などについて確認・修正すること(45分)。
授業時間外学習【復習】	発表後は答えられなかった質問について調べ次回回答する(1時間)。
課題に対する フィードバック	発表に対する質問に答えられない場合は宿題として学習してもらい、次回に発表してもらうことにより理解度を深める。プレゼンについての意見交換により、プレゼン能力の向上を図る。
評価方法・基準	各植物に発生する病害の理解度・発表能力・受講態度・プレゼン内容により総合的に評価する。(100点)
テキスト	必要に応じて作製した資料を配布する。
参考書	日本植物病理学会報(日本植物病理学会) 作物病害事典(全国農村教育協会)岸 国平編(1999)
備考	

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2026年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		環境園芸学科		
科目名称	専攻演習Ⅱ							授業形態	演習	
科目コード	710094	単位数	2単位	配当学年	4	実務経験教員			アクティブ ラーニング	○
担当教員名	山口 健一								ICT活用	○
授業概要	環境保全型農業論、環境保全園芸論等の講義や関連する実習・実験等の授業で習得した知識を基に、環境保全園芸学に関する研究の事例を学術論文・書籍等（英文）を教材として議論し、海外における専門分野の背景や手法、現状について理解することを目的とする。									
関連する科目	専攻演習Ⅰ・Ⅲ、卒業論文									
授業の進め方 と方法	事前に提示した課題について自ら学び、ゼミ形式でプレゼンテーションを実施する。本授業では、受講生と担当教員がディスカッションしながら問題解決型の体験学習として行う。									
授業計画 【第1回】	〇１．授業の進め方 受講生各自の課題を決め、プレゼンテーション方法について説明する。									
授業計画 【第2回】	〇２．プレゼンテーションの実例 教員あるいは上級生によるゼミ発表と質疑応答。									
授業計画 【第3回】	〇３．課題に対するプレゼンテーション 課題ごとに発表スキルを学び、質疑応答の方法を身につける。									
授業計画 【第4回】	〇４．課題に対するプレゼンテーション（受講生順次） 課題ごとに発表スキルを学び、質疑応答の方法を身につける。									
授業計画 【第5回】	〇５．課題に対するプレゼンテーション（受講生順次） 課題ごとに発表スキルを学び、質疑応答の方法を身につける。									
授業計画 【第6回】	〇６．課題に対するプレゼンテーション（受講生順次） 課題ごとに発表スキルを学び、質疑応答の方法を身につける。									
授業計画 【第7回】	〇７．課題に対するプレゼンテーション（受講生順次） 課題ごとに発表スキルを学び、質疑応答の方法を身につける。									
授業計画 【第8回】	〇８．まとめⅠ（総括） 前半の研究課題について受講生全員が理解し、共通認識する。									
授業計画 【第9回】	〇９．課題に対するプレゼンテーションⅡ 課題ごとに発表スキルを学び、質疑応答の方法を身につける。									
授業計画 【第10回】	１０．課題に対するプレゼンテーションⅡ（受講生順次） 課題ごとに発表スキルを学び、質疑応答の方法を身につける。									

授業計画 【第11回】	1 1. 課題に対するプレゼンテーションⅡ（受講生順次） 課題ごとに発表スキルを学び、質疑応答の方法を身につける。
授業計画 【第12回】	1 2. 課題に対するプレゼンテーションⅡ（受講生順次） 課題ごとに発表スキルを学び、質疑応答の方法を身につける。
授業計画 【第13回】	1 3. 課題に対するプレゼンテーションⅡ（受講生順次） 課題ごとに発表スキルを学び、質疑応答の方法を身につける。
授業計画 【第14回】	1 4. 課題に対するプレゼンテーションⅡ（受講生順次） 課題ごとに発表スキルを学び、質疑応答の方法を身につける。
授業計画 【第15回】	1 5. まとめⅡ（総括） 後半の研究課題について受講生全員が理解し、共通認識する。
授業の到達目標	科学論文（英文）について、読解力および要点を纏めて発表、質疑に応答する力を身につける。
学位授与の方針 （DP）との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(3)
授業時間外学習【予習】	今回の課題を予めアナウンスするので、各自で予習を行う。（30分程度）
授業時間外学習【復習】	授業で用いた科学論文について受講生各自で毎回復習する。（1時間程度） なお、不明な箇所は、必ず担当教員に質問して自ら学びを深める。
課題に対する フィードバック	プレゼンテーションや質問について、優れている箇所や改善が必要な点などを理由を付して都度講評する。
評価方法・基準	各課題テーマに対して理解度および発表力（50点）を、その他については質問の的確さおよび受講態度等（50点）を総合的に評価する。
テキスト	受講生各自の課題に関する論文を第1回授業で発表、配布する。
参考書	各回の課題に関する書籍・論文等を適宜紹介する。
備考	

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2026年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		環境園芸学科		
科目名称	専攻演習Ⅱ						授業形態		演習	
科目コード	710094	単位数	2単位	配当学年		実務経験教員			アクティブ ラーニング	
担当教員名	新谷 喜紀								ICT活 用	
授業概要	この科目の主な目的は、各自が文献紹介をすることによって、プレゼンテーション能力を高めることです。また聞く側にとっては知識を伸ばすだけではなく、他人のプレゼンテーションから、プレゼンテーションの技法について啓発されることが期待できます。紹介する文献は学術雑誌やインターネット上のもので、教員と相談して決めます。卒業論文のテーマが決まっていれば、関連性の深い文献を選ぶようにします。									
関連する科目	この科目を履修する前に、昆虫学、自然環境実習、動物分類学、動物生態学、有害動物各論、動物生理学、その他自然環境系の科目を履修していることが望ましいです。									
授業の進め方 と方法	この講義では、卒業論文作成に必要な力を磨くために、専門的な文献について勉強し、パワーポイントを使用したり、紙媒体の資料を作成し、研究室内で文献紹介の発表を行ってもらいます。文献は教員と相談しながら選びます。通常3～10ページ程度です。発表内容についての質疑応答の時間があります。									
授業計画 【第1回】	オリエンテーション ゼミの進め方の説明									
授業計画 【第2回】	論文（文献）の種類について									
授業計画 【第3回】	論文（文献）の構成について									
授業計画 【第4回】	論文（文献）の検索方法について									
授業計画 【第5回】	論文（文献）の管理方法について									
授業計画 【第6回】	発表									
授業計画 【第7回】	発表									
授業計画 【第8回】	発表									
授業計画 【第9回】	発表									
授業計画 【第10回】	発表									

授業計画 【第11回】	発表
授業計画 【第12回】	発表
授業計画 【第13回】	発表
授業計画 【第14回】	発表
授業計画 【第15回】	発表
授業の到達目標	・主に動物の生理や生態、害虫防除法、環境問題に関する知識を深め、文献読解能力を習得すること。 ・プレゼンテーション能力を身につけること。
学位授与の方針 (DP)との関連	2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(3)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(4)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外学習【予習】	文献について説明できるように勉強し、スライドや資料を作成するなど、発表の準備をする。
授業時間外学習【復習】	
課題に対する フィードバック	理解や説明が不十分だった点について補足を行ったり、プレゼンテーション技術について講評を行ったりする。
評価方法・基準	文献の内容の理解度とプレゼンテーション習熟度
テキスト	
参考書	酒井聡樹（2017） これからレポート・卒論を書く若者のために 第2版 共立出版
備考	

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2026年度		開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		環境園芸学科			
科目名称	専攻演習Ⅱ							授業形態		演習		
科目コード	710094	単位数	2単位		配当学年	4		実務経験教員		○	アクティブ ラーニング	○
担当教員名	陳 蘭庄										ICT活 用	○
授業概要	基本的な栽培技術を習得したうえ、最新の栽培システムやバイオテクノロジー的な手法などを用いて実行できるような指導を行う。実験材料の種類には捉われず、特に１）宮崎の在来野菜品種の振興と野菜品種改良に関する栽培および育種学的な研究と、２）アボミクシスの作物品種改良に関する細胞学的および生物工学的な研究を、重点的に推進する。各々の履修生の卒業論文のテーマに合わせて重点的に推進する。この講義の内容は、これまで本研究室で実際に行ってきた研究内容なので、これまでに得られた研究成果を発表してきた学会要旨や学術論文を交えながら、グループ討議や、実際の発表した学術論文を使って、目標をはっきりさせ、実験計画の立案から、計画の実施、結果のまとめ、論文の書き方まで、リアリティをもって教育することを行う。担当教員について、中国河北省農林科学院経済作物研究所にて、河北省蔬菜遺伝資源の探索、収集、調査、評価および「河北省蔬菜品種誌」の編集に携わった。科学技術特別研究員として農林水産省農業生物資源研究所と九州農業試験場にてアフリカから収集してきたイネ科牧草を用いてアボミクシス性特異的遺伝子のクローニングとその構造解析を行った。現場で培ってきた遺伝資源植物の扱い方や、苦労話、利用価値、重要性などについて、リアリティをもって学生に伝えたいと考えている。											
関連する科目	履修前後には「蔬菜園芸総論」、「蔬菜園芸各論」、「園芸植物育種学」、「植物分子育種学」を中心に、園芸生産環境専攻の必須科目および選択必須科目を履修したうえ、卒業研究テーマを実施するため、関連する知識やスキルを専攻演習で学ぶ。											
授業の進め方 と方法	研究室で進めているそれぞれの研究テーマを例として、計画に沿って自分自身の研究テーマについて発表を毎回１～２人に発表させ、聞いた人は発表内容について、質問したり、アドバイスをしたりする。そういうことをして、初めて自分の研究テーマにもフィードバックでき、参考になったりしてスムーズに自分の研究テーマを進めることに繋がる。と同時に、他人の研究テーマについても勉強でき、将来的に就職にも繋がる。											
授業計画 【第1回】	履修者の卒業論文の研究課題について、研究内容のバックグラウンド、問題の提起、実験計画の立案、材料および方法、データ収集、卒業論文として取りまとめるまでの一連のステップごとに指導する。 具体的には、項目は「専攻実験実習Ⅰ」と変わらないが、指導内容は各自の進捗状況に応じて適時、適所で指導する。 第1回 研究課題の選定：（研究の背景、目的、問題提起、解決する方法、到達目標などをもって、各自で自分の興味を持った課題を選ぶ。毎回１～２名で行う）											
授業計画 【第2回】	第2～3回 関連論文の探索と収集：（各自選んでテーマに関して関連文献や報告などを収集して紹介する。毎回１～２名で行う）											
授業計画 【第3回】	第2～3回 関連論文の探索と収集：（各自選んでテーマに関して関連文献や報告などを収集して紹介する。毎回１～２名で行う）											
授業計画 【第4回】	第4～5回 実験計画書の作成：（各自選んでテーマに関して実験計画を紹介する。毎回１～２名で行う）											
授業計画 【第5回】	第4～5回 実験計画書の作成：（各自選んでテーマに関して実験計画を紹介する。毎回１～２名で行う）											
授業計画 【第6回】	第6～7回 実施方法の確認・実施：（各自選んでテーマに関して実験方法、要領などを紹介する。毎回１～２名で行う）											
授業計画 【第7回】	第6～7回 実施方法の確認・実施：（各自選んでテーマに関して実験方法、要領などを紹介する。毎回１～２名で行う）											
授業計画 【第8回】	第8回 中間評価（および検討または見直し）：（各自選んでテーマに関して、中間評価を紹介する。毎回１～２名で行う）											
授業計画 【第9回】	第9～10回 データの取りまとめ：（各自選んでテーマに関して、初歩的な予備実験などについてデータをまとめて中間評価を紹介する。毎回１～２名で行う）											
授業計画 【第10回】	第9～10回 データの取りまとめ：（各自選んでテーマに関して、初歩的な予備実験などについてデータをまとめて中間評価を紹介する。毎回１～２名で行う）											

授業計画 【第11回】	第11～12回 中間発表；（各自選んでテーマに関して、初歩的な予備実験などについてまとめたデータを紹介する。毎回1～2名で行う）
授業計画 【第12回】	第11～12回 中間発表；（各自選んでテーマに関して、初歩的な予備実験などについてまとめたデータを紹介する。毎回1～2名で行う）
授業計画 【第13回】	第13～14回 卒業論文の作成；（各自選んでテーマに関して、初歩的な予備実験などについて、卒業論文の書き方を習って作成してみる。毎回1～2名で行う）
授業計画 【第14回】	第13～14回 卒業論文の作成；（各自選んでテーマに関して、初歩的な予備実験などについて、卒業論文の書き方を習って作成してみる。毎回1～2名で行う）
授業計画 【第15回】	第15回 卒業論文発表；（各自選んでテーマに関して、初歩的な予備実験などについて、卒業論文の書き方を習って作成したものを発表してみる）
授業の到達目標	基本的に履修者本人が指導教員の指導のもと、研究の立案から最終的に卒業論文を取りまとめることができることを目標としている。
学位授与の方針 （DP）との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(1)
授業時間外学習【予習】	事前に配った資料やプリント、指定した教科書または参考書、本授業とかわりのある新聞記事や科学雑誌等をもって、予習すること。事前の勉強する時間は30分くらいあればと考える。
授業時間外学習【復習】	また、授業の内容について、分かったことやわからなかったことをはっきりさせ、配られた資料やノートを再点検してわからなかったことを自ら解決する。それでもわからない場合、図書館から関連図書を調べたりインターネットを使ったりして解けるようにする。どうしてもわからない時は、先生に直接聞いてみる。わからなかったことを貯めることなく、すぐに解決することを勧める。事後の勉強する時間は30分くらいあればと考える。
課題に対する フィードバック	それぞれの研究テーマの発表を毎回1～2人に発表させ、聞いた人は発表内容について、質問したり、アドバイスをしたりする。レポートは評価後、返却及び解説をする。
評価方法・基準	卒業論文の新規性（20%）、内容（20%）、まとめ方（20%）、完成度（20%）、発表（20%）などを総合的に評価する。
テキスト	特になし。
参考書	随時、指示または指定する。
備考	

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2026年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		環境園芸学科		
科目名称	専攻演習Ⅱ						授業形態		演習	
科目コード	710094	単位数	2単位	配当学年	3	実務経験教員			アクティブ ラーニング	○
担当教員名	林 典生								ICT活 用	○
授業概要	決めた研究領域で研究を進めるには、興味・関心を焦点化しながら情報収集・整理を行い、問題意識を醸成すること、問題意識に基づく文献・資料・論文を読解することや、既存の研究成果を整理しながら思索を重ねて問いを生成することが必要であり、本科目はそれら研究過程と同じ研究室所属の学生との協働を通して段階的に実践することで、研究テーマや領域を明確化し、自分はどう研究を進めていきたいのかを見出すことや研究成果を積み上げることを目的とする。 本授業の目的は、園芸福祉領域についてさまざまな視点から資料を収集・解析し、プレゼンテーションすることを通して、卒業研究の実施へとつなげる。 授業では、園芸福祉に対する各自の興味関心を基に資料を収集し、課題に取り組み、議論を通して学びを深める。									
関連する科目	受講する前に専攻演習Ⅰ、同時に卒業論文、受講後に専攻演習Ⅲを履修すること									
授業の進め方 と方法	基本的に授業は、アクティブラーニング方式によって実施する。文献レビュー及び調査等の研究方法の講義を行うとともに、それらに関連するグループ学習、ディスカッションや課題発表（問題解決学習、プレゼンテーション）等を行う。 場合により、オンライン形式も含めて外部機関・団体による講話・意見交換等を実施する場合がある。 課題等の提出及びフィードバックは、ユニバのクラスプロフィール上で行う。									
授業計画 【第1回】	オリエンテーションー授業概要の説明 ゼミの進め方を理解し、各自の興味関心を探る。									
授業計画 【第2回】	各自の関心や問題意識についての確認 各自の興味関心や問題意識についてまとめたものを発表し合う。									
授業計画 【第3回】	課題に対する文献検索方法 各自の課題に沿った文献の検索を確認し、紹介する。									
授業計画 【第4回】	先行研究の調査・まとめ 各自の課題に沿った論文を検索し、熟読してきたものを基に議論を行う。									
授業計画 【第5回】	発表・討論内容の検討 グループディスカッションの内容を検討する。									
授業計画 【第6回】	発表・討論 調べてきたことをグループディスカッションし、理解を深める。									
授業計画 【第7回】	中間まとめ グループディスカッションした内容を考察し、今後の計画を立てる。									
授業計画 【第8回】	各自の課題決定 卒業研究に向けた各自の課題を整理する。									
授業計画 【第9回】	各自の課題に沿った情報の収集-自己収集 各自の課題に沿った論文・文献を検索し、紹介する。									
授業計画 【第10回】	各自の課題に沿った情報の収集-再検討 各自で収集した資料を基に卒業研究に関する研究テーマ・方法を再考する。									

授業計画 【第11回】	再考した研究テーマ・方法に基づいて調査準備 各自で設定した研究テーマ・方法に基づいて行う調査の準備を行う。
授業計画 【第12回】	調査実施 各自で設定した研究テーマ・方法に沿って調査を行う。
授業計画 【第13回】	調査解析 実施した調査データ等の解析を行う。
授業計画 【第14回】	各自の課題の調査報告 作成したレポートを報告し、追加調査等の新たな課題を設定する。
授業計画 【第15回】	追加調査等の準備 新たに設定した課題に関する追加調査等の準備を行う。
授業の到達目標	1. 環境園芸学における園芸福祉の知識と技術及び価値の応用的内容を修得する。【教養・専門分野の知識・理解】【教養・専門分野、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力のスキル向上】【自己管理能力、チームワーク・リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力の態度・志向性の涵養】【統合的な学習経験と創造的思考力の養成】 2. 口頭発表を通じてプレゼンテーション能力や集団討論を通じてディスカッション能力も含む総合的なコミュニケーション能力を向上させる。【教養・専門分野の知識・理解】【教養・専門分野、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力のスキル向上】【自己管理能力、チームワーク・リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力の態度・志向性の涵養】【統合的な学習経験と創造的思考力の養成】
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(4)
授業時間外学習【予習】	授業で配布するテキストならびに参考図書・論文等の資料を授業前に精読し準備する。(1時間程度)
授業時間外学習【復習】	授業後にさらに理解を深めるために授業で配布したテキストならびに参考図書・論文等の資料を再度精読する。(1時間程度)
課題に対する フィードバック	レポートは評価後、返却ならびに解説を行う。
評価方法・基準	発表・研究した内容に関するレポート(100%)、但し欠席・遅刻・早退及び私語等の悪い授業態度は注意の上、減点とする。
テキスト	専攻演習時に別途資料を配布し、それに基づき実施する。
参考書	阿部幸大著 まったく新しいアカデミック・ライティングの教科書 光文社 2024、久保川達也著 公式と例題で学ぶ統計学入門 共立出版 2024、近藤克則著 研究の育て方 ゴールとプロセスの「見える化」 医学書院 2018 その他の文献は授業中に紹介する。
備考	この授業は第1回目開始前に受講生同士で話し合っ、実施曜日・時限を決めて行う。また、一部の授業は事前に連絡の上、別途日時を設けて実施する場合がある。 先方との都合次第により外部講師との意見交換や実践現場視察・活動体験等を行う場合がある。

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2026年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		環境園芸学科		
科目名称	専攻演習Ⅱ						授業形態		演習	
科目コード	710094	単位数	2単位	配当学年	4	実務経験教員		○	アクティブ ラーニング	○
担当教員名	杉田 亘								ICT活 用	○
授業概要	植物遺伝学、園芸植物育種学、園芸植物細胞工学、植物バイオ・育種演習、植物バイオ・育種実験等の専門科目や教養科目で習得した知識に加え、専攻演習Ⅰで習得した力を基に、国内の育種学関連学会和文誌に掲載された研究論文を読み進め、卒業論文の引用文献に加えるとともに、自らの卒業論文を作成する力を養います。また、論文に書かれた内容をまとめて専攻生の前で自らの言葉で簡潔に発表する力を高め、ビジネス社会で必要なプレゼンテーション能力を養います。卒論テーマに即した内容の論文を通して実験で扱う植物種に関連する実験手法、解析技術などの理解を深めます【知識・理解の獲得】。									
関連する科目	履修前に植物遺伝学、園芸植物育種学、園芸植物細胞工学、植物バイオ・育種演習、植物バイオ・育種実験、専攻演習Ⅰを受講していることが望ましい。									
授業の進め方 と方法	育種学的テーマに基づき、専攻演習Ⅰで習得した力を基に国内の育種学関連学会和文誌に掲載された研究論文を読み進めプレゼンテーションを行います。その内容に基づき、議論を深化させるとともに、育種法や育種技術に関連した話題についてのディベートを積極的に行い、論理的思考の構築、コミュニケーション能力の向上を図ります。また、遺伝育種学、バイオテクノロジーに関して自分の言葉で簡潔に発表する力を養います。									
授業計画 【第1回】	第1回 育種演習Ⅱの概要：本演習に係る概要を説明									
授業計画 【第2回】	第2回 研究計画検討 1：育種材料の決定について議論									
授業計画 【第3回】	第3回 研究計画検討 2：育種方法の決定について議論									
授業計画 【第4回】	第4回 論文読解 1：研究対象植物種に関する研究について学習									
授業計画 【第5回】	第5回 論文読解 2：研究対象の近縁植物種に関する研究について学習									
授業計画 【第6回】	第6回 論文読解 3：遺伝分析に関する研究について学習									
授業計画 【第7回】	第7回 論文読解 4：育種技術に関する研究について学習									
授業計画 【第8回】	第8回 論文読解 5：バイオテクノロジーに関する研究について学習									
授業計画 【第9回】	第9回 論文読解 6：統計解析に関する研究について学習									
授業計画 【第10回】	第10回 論文読解 7：最新情報への更新について学習									

授業計画 【第11回】	第11回 データ解析 1：作図方法について学習
授業計画 【第12回】	第12回 データ解析 2：作表方法について学習
授業計画 【第13回】	第13回 第一次中間検討 1：結果とデータ解析手法について学習
授業計画 【第14回】	第14回 第一次中間検討 2：考察・引用文献の記述法について学習
授業計画 【第15回】	第15回 総合討論：現在までのデータに基づく総合討論
授業の到達目標	自らが取り組む卒論テーマに関連した園芸植物の育種に関する科学論文について、論文から事実を把握する力、要点をまとめる力、明確に話す力を養い、プレゼンテーション能力を高めます。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(3)
授業時間外学習【予習】	授業前：卒論テーマに関連する学会誌に掲載された研究論文を読み込んでください（毎回1-2時間程度）
授業時間外学習【復習】	授業後：卒論の引用文献として蓄積してください（毎回0.5時間程度）
課題に対する フィードバック	受講者に対して授業中に質問を行い、受講者自身の理解度の確認を行うとともに、内容について説明を行います。また、その結果に基づき、授業内容の確認を行います。
評価方法・基準	各回の発表について、論文テーマ選定の適否、理解度、発表時間、ポイントの把握、今後の展望及び質問への応答の的確さを評価します。
テキスト	育種学会誌（Breeding Science, 育種学研究） 園芸学会誌（The Horticulture Journal, 園芸学研究）他
参考書	植物育種学辞典 日本育種学会 培風館(2005)
備考	

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2026年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		環境園芸学科		
科目名称	専攻演習Ⅱ						授業形態		講義・演習	
科目コード	710094	単位数	2単位	配当学年	4	実務経験教員			アクティブ ラーニング	○
担当教員名	長江 嗣朗								ICT活 用	○
授業概要	現在、海外で花卉を対象にどのような事象が問題となっているのか、また実際に研究されているのかを学修する。次に、自裁に海外で報告されている学術論文を相互に紹介し、これまで行われてきた花卉を対象とする研究について学修する。 この授業の目的は、まず海外における花卉の現状を知ることである。									
関連する科目	2年前期「花卉園芸総論」、2年後期「花卉園芸各論」、3年後期「専攻演習Ⅰ」、4年後期「専攻演習Ⅲ」、4年通年「卒業論文」									
授業の進め方 と方法	授業では資料を配布し、グループディスカッションを行う。また配布する資料については、学生が持ち回りで作成する場合もある。									
授業計画 【第1回】	海外における花卉の現状 1 主要花卉の現状と栽培									
授業計画 【第2回】	海外における海外の現状 2（主要作物以外の栽培） 第1～2回は、国外の下記の生産状況や流通状況について学修する。									
授業計画 【第3回】	海外における花卉の課題 1 主に花卉の病害虫について学修する。									
授業計画 【第4回】	海外における花卉の課題 2 主に花卉の土壌肥料について、学修する。									
授業計画 【第5回】	海外における花卉の課題 3 主に花卉の気温条件、温度条件、光条件について学修する。 第3～5回は、花卉の栽培について、現在の国外における手法を学び、さらにその課題について検討する。									
授業計画 【第6回】	英文雑誌の案内									
授業計画 【第7回】	英語論文における表現解説									
授業計画 【第8回】	英語論文における図表の見方 第6～8回は、英語論文を相互に紹介し、その意味が理解できるようにする。									
授業計画 【第9回】	英語雑誌の検索方法 興味のあるテーマの英語論文が自分自身で探すことができるように学修する。									
授業計画 【第10回】	英文紹介 1 切り花の栽培について。									

授業計画 【第11回】	英文紹介 2 鉢物の栽培について。
授業計画 【第12回】	英文紹介 3 花卉の苗物の栽培について。
授業計画 【第13回】	英文紹介 4 切り花の鮮度保持技術について。
授業計画 【第14回】	英文紹介 5 鉢物の鮮度保持について。
授業計画 【第15回】	まとめ これまでの 14 回の授業を復習する。
授業の到達目標	花卉が人類と深い関わりがあることを説き、なぜヒトに花卉が必要なのかを説明できるようになる。【知識・理解の獲得】 さらに、花卉の開花メカニズムを知ることにより、環境をコントロールして開花を人為的に支配できる能力を身に付ける。【知識・理解の獲得】
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(3)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(4)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外学習【予習】	ゼミでの発表のための用紙を作成し、わからない箇所を自分で調べておく。予習に 2 時間。
授業時間外学習【復習】	授業を聞いてもわからなかった箇所を自分で調べる。復習に 2 時間。
課題に対する フィードバック	前回の発表での説明不足であったこと、理解できなかったことは、次回以降の授業で解説する。
評価方法・基準	論文の紹介、論文の理解度から評価する。
テキスト	特になし。
参考書	植物に関わる学術雑誌。
備考	特になし。